

どくしょ もり 読書の森

平成28年2月1日(月)
国立第四小学校 図書室

1月の朝読書の時間は、各学年、物語を読みました。同じ作品を読んで、お友達はどう感じたのでしょうか…。作品が載っている本を知りたいみなさんは、図書室に行ったり、公共の図書館で本を借りたりしてみてください。

1年生 『ちょうじゅうぎが』

ちょうじゅうぎがの絵を見て、思ったことを書きました。



イラストは「ちょうじゅうぎが」より引用

1年1組
うさぎが ひしゃくで さるのせなかをあらっているところが おもしろいです。

1年2組
うさぎが さるにのってるところ、さるとうさぎがおよいでる、うさぎとさるが水かけっこをしている。



2年生 『すごいぞパンナちゃん あっちこっちでへびさがし』 イトウ ひろし

あらすじ・・・

パンナちゃんは、パンナちゃんとピクニックに行く約束をしました。パンナちゃんは、パンナちゃんと二人で行くつもりでしたが、コリンくんもつれてきました。パンナちゃんとコリンくんは、二人で楽しそうでした。パンナちゃんは、少しつまらなさそう…。そんな時、木の枝からへびがあらわれました。コリンくんは、いちもくさんににげ出しました。パンナちゃんは、こしをぬかしてしまいました。パンナちゃんは、パンナちゃんを助けながら、へびのしっぽをつかむと、ぐるぐるふりまわし、へびを遠くの草むらへほうりなげました。つづく・・・



イラストは「すごいぞパンナちゃん あっちこっちでへびさがし」イトウ ひろし著」より引用

3年 『きつつきの商売』 林原 玉枝

あらすじ・・・

きつつきは、新しいメニューを考えました。「トレモロ」です。新しいメニューをためしてみたくて、ぶなの木のとっぺんに行って、くちばしでカいっばい、ぶなの木をたたきました。

“た、らららららららら……”

しばらくすると、森のどこか遠くからこどもがかえってきました。きつつきはうれしくて、何度もトレモロをくりかえしました。色づきはじめたぶなの森に、トレモロがひびきわたりました。



イラストは「きつつきの商売 林原 玉枝著」より引用

3年1組

わたしは、「トレモロ」をあたらしいメニューにすると、「トレモロ」ってなんだろうと思ったけど、きいてみたら、とてもいい音なんだなと思いました。

3年2組

きつつきが、トレモロをすると、こだましてかえてきたのが「きっときれいな音なんだな。」と思いました。しかも めまいのこともわすれているくらい おもしろいんだと思います。わたしも そこにいて聞いてみたいです。



2年1組

パンナちゃんとヘナちゃんは、へびがすきで、パンナちゃんとコリンくんは、へびがきらいです。パンナちゃんはヘナちゃんのことをにがてで、でもヘナちゃんは、きづいていませんでした。なのでわたしのことも にがてな人がいるのか しんばいです。そして そのうち わたしも にがてな子がでるのかと しんばいです。

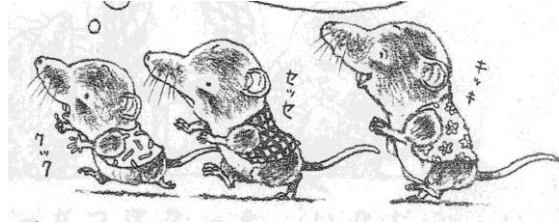
2年2組

パンナちゃんとヘナちゃん、へびさがしをしていたら、まいしゅう日ようびに、ぴんぽんをおして、でもヘナちゃんはいっしょにあそびたかったと思います。ちょっとともだちになったと思います。

4年 『トガリ山のぼうけん① 風の草原』 いわむら かずお

あらすじ・・・

トガリネズミのトガリじいさんのへやにやってきたのは、キッキとセッセとクックの三びきの子ネズミたちです。三びきはトガリじいさんのまごで、いつもお話を聞きにやってきます。今日は、トガリじいさんのとっておきの話です。それは、「トガリ山」というてっぺんが雲にかくれていてみえないほどの大きな山に、トガリじいさんが若いころ登った時の話でした・・・



イラストは「とがり山のぼうけん① 風の草原 いわむらかずお著」より引用

4年1組

もし、自分がトガリネズミに生まれていたら、自分も祖先と同じように天までとどく高いトガリ山に登る運命になっていたので、人間に生まれてよかったと思った。

4年2組

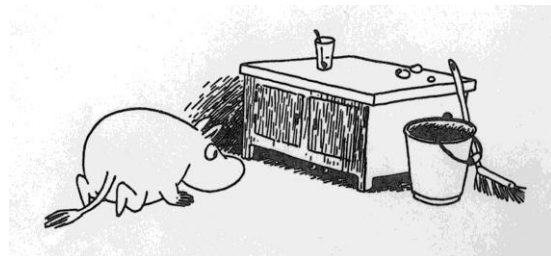
とっておきの話をして、それが作り話だとは思えませんでした。本物の話だと思いました。おもしろかったです。



5年 『ムーミン谷の冬』 トーベ・ヤンソン

あらすじ・・・

ムーミン一家は先祖代々、11月から4月にかけて冬眠をすることがきまりでした。しかし、ムーミン・トロールは目を覚ましたまま、もう一度、眠ることができなくなってしまったのです。ママに声をかけてみても起きないし、家の中での食べものは、かさかさのビスケットぐらい。静かな家にいるのが不安になったムーミン・トロールは、友達のスナフキンからの手紙を読んで、スナフキンに会いに南へ行こうと思いました。ドアは、こおってしまって開かないので、窓から外へ出たムーミン・トロールは、雪と冬のおいにおい、おどろきながら、南を自指して歩いていきました。つづく・・・



イラストは「ムーミン谷の冬 トーベ・ヤンソン著」より引用

6年 『夜の神話』 たつみや 章

あらすじ・・・

小学6年生の正道は、先週、田んぼと畑のひろがるおばあちゃんの家へ引っ越してきましたが、生活になじめず、どうして引っ越してきたのだろうと思いつつながら自転車にのって家に帰る途中で、何かにすべって転んでしまいました。——おおきなヒキガエルをひいてしまったのです。そこへ、いとこの朝子お姉さんが通りかかって、正道の怪我の手当てと、ひいてしまったカエルのお墓を作ってくれました。正道は、何でカエルのお墓を作らなくてはいけないのかと思いました。その夜、正道は、知らない男の人に「正道はかわいそうだね」と言われるへんな夢を見ました。つづく・・・



イラストは「夜の神話 たつみや章著」より引用

6年1組

「コンビニもなく、塾もない。」と書いてあり、びっくりしました。私はふつうに買い物をするけれど「この男の子の町は本当になにもないんだな〜。」と思いました。なにもないからこそ、「小さなかえるも大事にしているんだな〜。」と思いました。

6年2組

私は、夢の話が気になりました。「正道はかわいそうだね」と知らない人が言ったことなど、もう少し知りたいと思わせるような話が心に残りました。



5年1組

このお話をよんで、私はムーミントロールには「勇気」があると思いました。自分をさましているのが自分一人だけと思うと、前に一歩、私だったらすすめません。立ち止まって、あとずさりしてしまいます。そして、かわいらしいムーミンのしぐさも心に残りました。

5年2組

「とても小さい足あとでした。けれど、きっぱりとして南のほうへまっすぐにむかっていた。一林のあいだをぬけて。」というムーミントロールが決心した気持ちが心に残りました。